

6年2組

畑 第2章
～心を耕す～(完)

食べてもらいたい 私たちの野菜

6年2組では、総合的な学習の時間に畑で野菜を育ててきました。昨年度は、自分たちで育てた野菜を自分たちで味わいました。今年度は、育てた野菜を「誰かに食べてもらいたい」という願いで活動をしてきました。商品の規格が合わず思うように出荷できなかった時や、害虫や雑草との戦いの日々でしたが、みんなで協力して、自慢の野菜を育てることができました。

育てた野菜は、学校の給食に出してもらったり、平成農園という会社に出荷したり、善光寺のびんずる市で販売させてもらったりしました。育てた野沢菜で野沢菜漬けを作ったり、ほうれん草でパウンドケーキを作ったりもしました。食べていただいた人から、「おいしかったよ」「優しい味がした」「もっと食べたい」などという感想をいただき、自分達が育てた野菜で人を笑顔にすることができ、子どもたちはとても誇らし気な表情でした。

「販売した利益を、どのように使うのか」という話し合いでは、「お世話になった学校に恩返しをしたい」という願いから、図書館に本



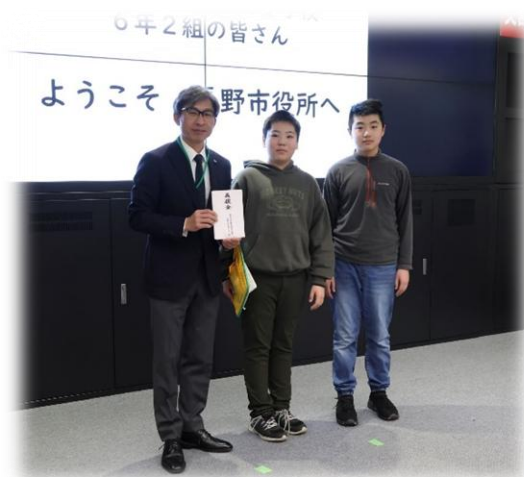
を2冊寄付すること。

社会科でユニセフの活動を知り、「自分たちにできることをしたい」という願いから、ユニセフに1万円募金すること。そして、「能登半島地震で被害に合われた方々を救いたい」という願いから、2万7135円を募金させていただきました。子どもたちが稼いだお金が、少しでも災害で苦しんでいる方たちへのお役に立てると幸いです。

2年間、野菜を見つめ、友と関わり、社会と関わる中で、子どもたちは自分を豊かにしていったように感じます。以下は、子どもたちの学習の振り返りです。※()内は、教師が考える子どもに育まれた力

○落としたきゅうりの種が自然に発芽。「生きよう」としている姿を見て、私の心の根もそのように強くしたいと思った。(生命の強さから、自己の生き方に繋げる力)

○オクラが豊作だったのは、調べ学習、追肥、摘葉をチームでやったから。協力の大切さを実感した。役割分担の大切さを学んだ。Aさんは調べもの、Bさんは土など同時進行することで、一人の負担が減り仕事ははかどる。社会に出たときに役立つと思う。(協力する力、社会で生きる力)



- 「野菜を育てる大変さを実感して、世の中の見えていないところできっと誰かががんばっていることが分かった」「様々な観点から物事を見ることができた」「当たり前は、当たり前ではない」(物事の裏側を見つめる力、多様な見方・考え方ができる力)
- 正しい知識が必要だった。「知識は力なり」という言葉を大切にしたい。(追究する力)
- 見通しをもつことの大切さを学んだ。収穫から逆算する。追肥、剪定、元肥など。これは仕事でも同じではないか。いつメ切だから、この日には仕事を終わらせよう。早めに取り組むと心に余裕がでる。(社会で生きる素地)
- 育てるのが大変だったから大切に食べようと思う。好き嫌いを克服できた。(生産者への感謝、生命への感謝、作ってくれた人への感謝の念)
- 社会の厳しさと、人の優しさを学んだ。平成農園さん→品質が大事。びんずる市での販売など→買ってくれた人、食べてくれた人からの感謝の言葉を聞くと満足感、達成感、充実感が得られた。(社会の厳しさを知り、自分たちの力でよりよいものを創造していこうとする力)
- 大切にしてきた言葉は「雨降って地固まる」。私たちがやってきた活動そのものを表している。トライ＆エラーの大切さ。失敗を恐れない、失敗から学ぶことを大切にしたい。(生きる強さ)
- 天気と自然の怖さ、尊さ。(自然への畏敬の念)
- 野菜の声を聴く。野菜になる。→野菜を大切にすることが、人への思いやりやコミュニケーション力に繋がっている。(豊かな人間性)

Aさんは、「野菜の声を聞くことで人の心を感じることができるから、人との関係が良くなると思います」と振り返りに綴っていました。このように振り返るAさんは、今まで友達との関わり方に課題を感じていたのかもしれませんが。そんなAさんが、野菜を育てる中で、野菜は今何を求めているのか、どんな声を発しているのかを想像し、自分にできることを野菜に働きかけていきます。そして、この経験を、「友達は今何を考えているのだろう」「どんな言葉を伝えたらよいのだろう」と、友達を思いやる力に繋げていったのだと考えます。畑での野菜作りを通して、自分を豊かにしていくAさんの成長を感じることができました。ありがとう、畑。

